

# カワウによる内水面資源の捕食実態の把握

静 一 徳

## 目 的

青森県におけるカワウによる内水面資源の捕食実態の把握のため、カワウの捕食魚組成を明らかにする。

## 材料と方法

### 1. 胃内容物調査

#### (1) 調査月日・場所（図 1）

2024 年 5 月：新井田川（1 羽）

2024 年 7 月～9 月：奥入瀬川（69 羽）

2024 年 6 月～8 月：赤石川（13 羽）

2024 年 6 月～9 月：中村川（4 羽）

#### (3) 調査方法

有害鳥獣駆除により捕獲されたカワウ 87 羽の胃内容物を分析した。

#### (4) サンプル処理

回収したカワウは $-20^{\circ}\text{C}$ ～ $-30^{\circ}\text{C}$ の冷凍保管後に解剖した。カワウは年齢（幼鳥～若鳥、成鳥）を査定し、全長、体重を測定した後、開腹し、生殖腺からの雌雄判別と胃内容物の摘出を行った。

#### (5) 胃内容物分析

消化が進み全長、体長、体重測定が出来なかった魚体は、残存物の形態的特徴により種同定を行い、尾鰭長<sup>1,2)</sup>、準下尾骨長<sup>3)</sup>、咽頭骨長<sup>4)</sup>、主上顎骨長・歯骨長<sup>4)</sup>からの推定式により体重を推定し胃内容物組成を復元した。各部からの体重推定式が文献等より得られない魚種については近縁種の推定式を代用した。

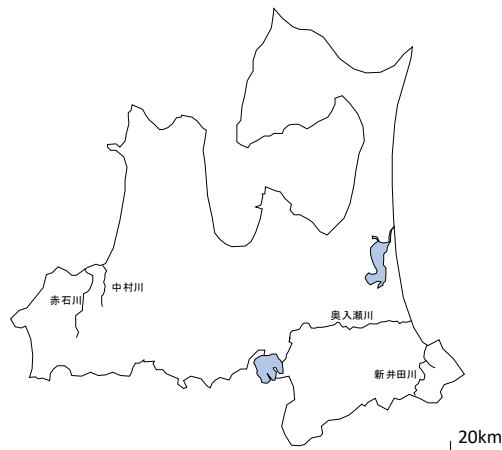


図 1. 調査定点

## 結果と考察

2024 年に捕獲されたカワウの成長段階は、幼鳥～若鳥の割合が高い傾向にあった（表 1）。赤石川では 13 羽中、幼鳥～若鳥が 8 羽（62%）、奥入瀬川では 69 羽中、幼鳥～若鳥が 54 羽（78%）であった。奥入瀬川では幼鳥～若鳥の割合に明瞭な季節的变化はなかった。

全長と体重（胃内容物除去）の関係は、奥入瀬川では 7 月の個体が 8 月、9 月の個体と比較して、全長に対する体重が重い傾向にあった（図 2）。赤石川の個体には明瞭な季節的傾向は認められなかった。新井



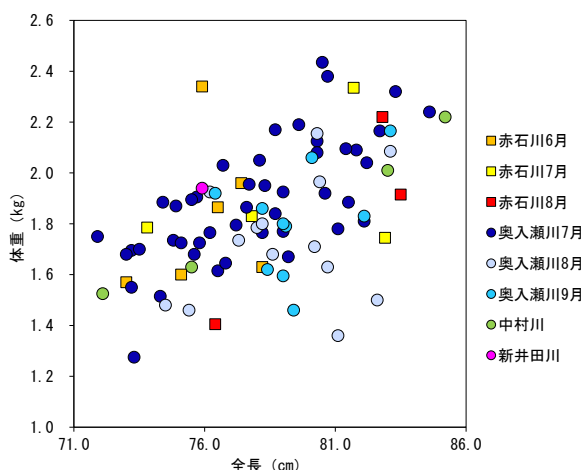


図 2. カワウの全長－体重の関係

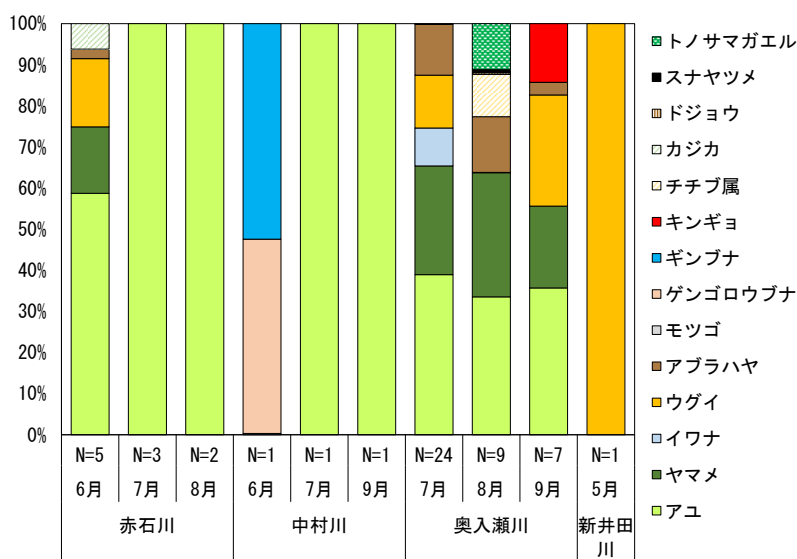


図 3. 河川・時期別の胃内容物重量組成

## 謝 辞

青森県内水面漁業協同組合連合会、弘前大学、日本野鳥の会青森県支部・弘前支部、岩手県立博物館の高橋専門学芸調査員、埼玉県立自然の博物館の本多里奈学芸員、青森県猟友会、鱒ヶ沢町漁業協同組合赤石支所、奥入瀬川漁業協同組合、奥入瀬川鮭鱒増殖漁業協同組合、新井田川漁業協同組合、青森県水産振興課、鱒ヶ沢町役場、八戸市水産事務所に多大なご協力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

## 文 献

- 1) 戸井田伸一 (2002) 相模川水系におけるカワウ *Phalacrocorax carbo hanedae* の食性. 神奈川県水産総合研究所研究報告, 7, 117-122.
- 2) 藍憲一郎, 尾崎真澄 (2007) 夷隅川水系および養老川水系におけるカワウ *Phalacrocorax carbo hanedae* の食性. 千葉県水産総合研究センター研究報告, 2, 43-51.
- 3) 高橋鉄美, 亀田佳代子, 川村めぐみ (2002) 尾鰭骨格による琵琶湖産アユおよびワカサギの種判別と体長の推定 (短報). 日本水産学会誌, 68, 576-578.
- 4) 熊川真二 (2008) 魚食性鳥獣類の消化管内に残る咽頭骨などの魚類組織断片の解析による被食魚類の種判別と体長及び体重の推定. 長野県水産試験場研究報告, 10, 7-16.